

## (1) 研究主題

# ふるさとを見つめ 他者とのかかわりの中で 主体的に学び・発信しようとする子供の育成 ～「起業体験活動」と「児童が学びの主体となる授業づくり」を通して～

## (2) 主題設定の理由

### ア 教育の今日的課題から

新学習指導要領において、これからの中学生たちに求められる資質・能力として（1）「自立した人格を持つ人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力」（2）「主体的に学ぶ力」

（3）「豊かな人間性」が示されている。これらの育成すべき資質・能力の3要素として①知識及び技能が習得されるようにすること②思考力、判断力、表現力等を育成すること③学びに向かう力、人間性を涵養することが挙げられている。これらの育成のために各学校では、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組むことが求められている。

さらに、今日的課題の一つとして、コロナ禍で奪われてきた他者との関わりや子供たちの社会参画の機会をどのように回復させていくか、また、そのことにより下がってきている主体性をどのように高めていくか、「社会の開かれた教育課程」の実現がまさに急務であり、各学校において地域の人的・物的資源を活用することが望まれている。本校ではこれまで取り組んできたコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進をさらに発展させることで解決できると考える。

### イ 本校の教育目標から

本校では、校訓である「学ぶ力、たくましい心身、豊かな心」を受けて、「人にやさしく しっかり学ぶ！ 夢を育む『チーム東』～ふるさとを愛し、仲間とともに一人ひとりが輝く学校～」を教育目標としている。

児童が生きる力を身に付けるために、①自分やまわりの人の命や夢を大切にし、仲良く助け合う②まわりの人への感謝の気持ちをもち、あきらめずにやり抜く ③自ら進んでまわりの人と関わり、自ら学び、考え、進んで挑戦する児童の育成を目指したものである。その実現に向けて育てたい3つの資質・能力を「ひ・が・し」をキーワードに学校・家庭そして地域で共有している。「ひ」は他者と協働する力、「が」は継続する力、「し」は主体的に学ぶ力である。

児童がふるさとで活躍するために、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を活用した起業体験活動を通して地域のよさ（人・もの・こと）に出会い、関わることで、ふるさとへの愛着を深めさせることができる。また、様々な活動を通して、一人一人に達成感や自己有用感の育成につなげることができる。さらに体験活動と教科等の指導を往還させた授業を実践することで、児童の実感を伴った学びを実現することができる。学校における教育活動において「ひ・が・し」のキーワードを基に児童の資質・能力を高めていくことで、学びに向かう力や将来にわたって学習し続ける基盤づくりにつながるものと考える。

### ウ 本校児童の実態から（令和6年度 i-check、熊本県学力・学習状況調査より）

R 6 年度熊本県学力・学習状況調査の結果から、国語科においては、2年・6年（新3年・中1）において県平均を上回る結果となった。領域別に見てみると、学年間の差はあるものの、「書くこと」については県平均を上回った学年が多い。一昨年度からの課題であった「読むこと」については、高学年以外で課題が見られる結果となった。「音読タイム」の継続的な取組や「読書タイム」の設定等、「読む力」をつけるための取組が必要である。「話すこと・聞くこと」についても学校全体としての課題として挙げられる。共通実践事項として取組を行った「話の聞き方」についての徹底や一分間スピーチ等の取組を考えていく必要がある。

算数科においては、2年・5年・6年（新3年・6年・中1）において県平均を上回る結果となった。I C T 機器を活用した日々の授業実践、百ます計算大会の継続的な取組など、学力充実のための取組を通して基礎的な力が向上し、数値的な向上が見られた。学校全体として「誰一人取り残さない学びを保障」する家庭学習及び個別学習の充実を図っていきたい。

i-check の結果より、「友達の話を最後まで聞くように心がけていますか。」「クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして授業に集中できないことがありますか。」という回答では、学年間で差が見られた。学校総体としての学習規律の徹底が求められる。また、「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいますか。」という回答についても肯定率が低く、主体的な学びに課題がみられた。

起業体験学習に関しては、「将来、あんなになりたい、こんな仕事がしたいという、夢や目標がありますか。」という回答で、年度当初のアンケートに比べると伸びが見られた。一方、社会参画に関して「お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加していますか。」の回答は、学校全体として課題となった。「いきいき感謝祭」をゴールとしたこれまでの取組も含め、これまで以上に起業体験学習を充実させ、地域とのつながりを大切にしながら、今後も計画的・継続的な取組が必要であると考える。

### (3) 主題設定について

#### ア 「起業体験活動」について

本校の児童はこれまで、校区内にある児童にとっては身近で当たり前の「人・もの・こと」に体験活動を通してたくさん出会い、そのよさを知ることができている。ふるさとを見つめることは、自分自身がどのように「人・もの・こと」と関わってきたかと自ら問うことにつながる。ふるさとに対する誇りや愛情を育てることができると考える。また、起業家の資質の能力として、情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等が挙げられる。この中でも特に本校児童に付けたい力は、「コミュニケーション力・発信力」である。今後、自分の考えを持ち、伝えることはもちろんのこと、相手の考えを受け入れたり、お互いの考えから新しいものを生み出したりしていく力が求められる。子どもたち同士、子どもと地域の人など様々な人とのかかわりの中でコミュニケーションを図り、つながりを深めていくことが大切であると考える。さらに、変化の激しい予測困難な時代の中、失敗を恐れないチャレンジ精神や優れた自己表現ができる人材が求められる。物事への達成感は、主体性があるからこそ実現されるものである。学校という小さな社会の中だけでなく、地域という広がった社会での関わりの中で、自ら学びに取り組むことと、表情や言葉・行動などで表現・発信する力を育成することが大切であると考える。

#### イ 「児童が学びの主体となる授業づくり」について

「熊本の学び」では、「問い合わせを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める子供」を実現する授業づくりを目指している。児童を学びの主体とするためには、教師は、児童の考えをつないで整理し、コーディネートすることが大切である。児童が考えを深めるためには、教師や児童同士の問い合わせも大切になってくる。学び合いを中心とした発達段階に応じた協働的な学びを通して、児童が主体となった学習活動の展開を図っていく。具体的には、「授業において、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組むこと」、「自分の考えを発表する場面を設定し、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表させること」を共通実践とする。

また、「めあて」に対応した「まとめ」を行うなど、本校独自の「き・な・こ」による振り返りを通して、「ひ・か・わ」型学習を充実させることで学びの質を高める。

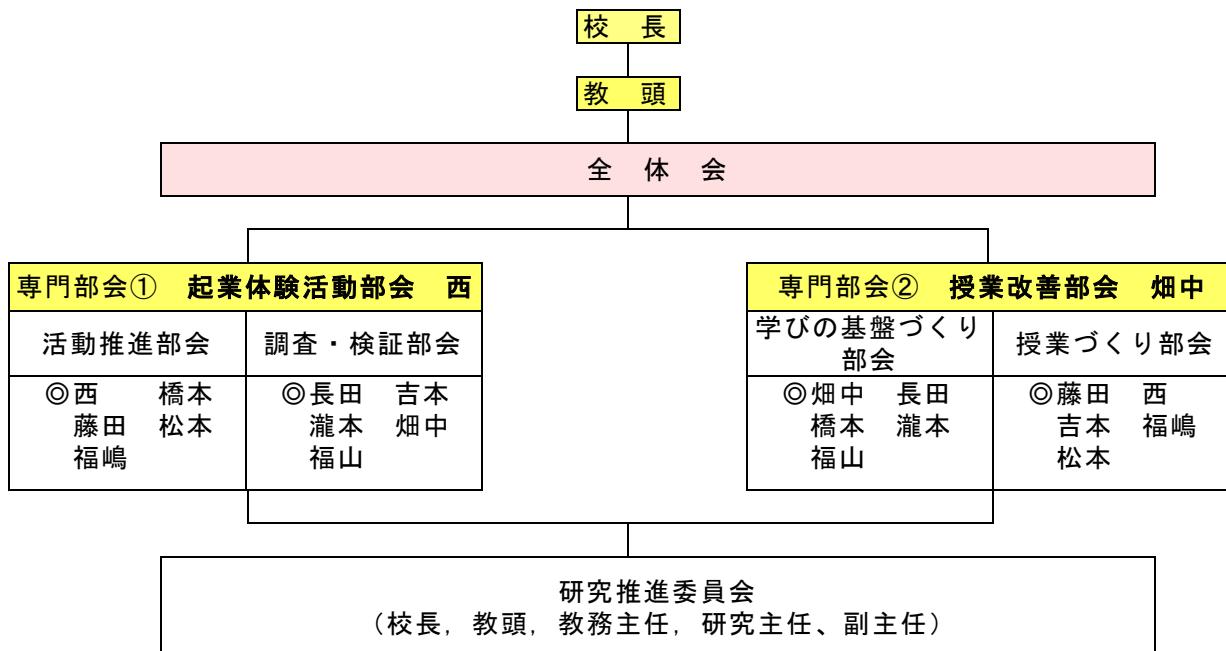
このように、これまで継続的に取り組んできた「ひ・か・わ」型学習に、児童が主体となった学習活動の展開を組み合わせた授業改善を通して、「わかる・できる授業づくり」の実現を目指す。

さらに、「児童が学びの主体となる授業づくり」の基盤となる学習規律として、「授業中、ふざけたりおしゃべりしたりして集中できないことがないようにすること」を共通実践として重点的に取り組み、個々の学級経営力の向上を通して、「安心して学べる学級づくり」の実現を目指す。

### (4) 研究の仮説

- (1) 起業体験活動を通じた、ふるさとの「人・もの・こと」との出会い・学び・発信する機会や場を計画的・組織的に設定することで、主体的に他者と関わり、自ら学びに取り組む児童を育成することができるであろう。
- (2) 「ひ・か・わ」型学習を基盤に、児童が学びの主体となる授業改善に取り組むことで、発達段階に応じた協働的な学びが促進され、学びの質が深まり、学習内容の定着を促進することができるであろう。

### (5) 研究組織



## (6) 研究の構想図

学校教育目標  
「人にやさしく しっかり学ぶ！  
夢を育む『チーム東』」  
～ふるさとを愛し、仲間とともに一人ひとりが輝く学校～

### 研究主題

ふるさとを見つめ 他者とのかかわりの中で  
主体的に学び・発信しようとする子供の育成

～「起業体験活動」と「児童が学びの主体となる授業づくり」を通して～

#### 研究の仮説

- ①起業体験活動を通じた、ふるさとの「人・もの・こと」との出会い・学び・発信する機会や場を計画的・組織的に設定することで、主体的に他者と関わり、自ら学びに取り組む児童を育成することができるであろう。
- ②「ひ・か・わ」型学習を基盤に、児童が学びの主体となる授業改善に取り組むことで、発達段階に応じた協働的な学びが促進され、学びの質が深まり、学習内容の定着を促進することができるであろう。

#### 視点 1

ふるさとの「人・もの・こと」と豊かに関わる起業体験活動の充実

#### 視点 2

「ひ・か・わ」型学習を基盤とした児童が学びの主体となる授業改善

家庭、地域との連携・協働

#### (1) キャリア教育の視点に立った起業体験活動の工夫

- ・自ら主体的にふるさととかかわる地域人材を生かした効果的な体験活動・発信する場の設定
  - ・キャリアパスポートを活用した振り返りと評価
- #### (2) 自己有用感や自尊感情を育むためのカリキュラムマネジメントの構築
- ・自他を大切にする心や他者と協働する力を育む活動の工夫
  - ・児童主体となる自治活動や互いを尊重する仲間づくり

#### (1) 主体的な学びを支える学習の基盤づくり

- ・学習規律づくりのための共通実践
  - ・計画的な朝自習の実施
  - ・家庭学習の充実
- #### (2) 児童が学びの主体となる授業づくり
- ・子どもの意欲を高め、思考を深めるための教師のコーディネート
  - ・学び合いを充実させるための教師の声かけ
  - ・主体的に表現・発信するための活動の工夫
  - ・発達段階に応じた協働的な学び

ICT 機器の効果的な活用

OJT を推進するための日課の工夫と授業技術を互いに高め・伸ばし合う教師集団づくり

#### 学習基盤

認め、励まし合う学級の雰囲気づくり

子ども達の力を伸ばす家庭・地域との連携

校内研修計画

回数	月	日	曜	研修内容			担当
1	4	14	火	本年度の研究について		部会①（起業体験部会）	吉本、各部会
2	5	7	水	特別支援教育について			福嶋
3		14	水	部会②（授業改善部会）		共通実践の確認	吉本、各部会
		28	水	中学校区人権レポート研修会			全員
4	6	11	水	地域理解研修①（竜北公園・道の駅等へ）			西、各学年
5		18	水	心肺蘇生法講習（講師招聘）			福山
6		25	水	授業研①【提案授業】4年			吉本
7	7	9	水	部会①（起業体験部会）		部会②（授業改善部会）	各部会
8		16	水	F・氷川ブロック研へ向けて		1学期の振り返り	瀧本、吉本
	8			東光保育園・吉野保育園・ダーナ保育園訪問			
				町人権教育研修会			
				町情報教育研修会			
9	9	3	水	夏季休業中の研修復講	2学期の取組について	部会①（起業体験部会）	吉本、各部会
10		10	水	授業研②【教科】			
11		17	水	F・氷川ブロック研へ向けて		全学調分析	学年部、畠中
12		24	水	学力向上のための授業づくり（講師招聘）			吉本
13	10	8	水	学級集団づくりについての研修		部会②（授業改善部会）	担当、各部会
14		15	水	授業研③【総合/生活】			
15		23	木	F・氷川ブロック研 事前検討会			瀧本、学年部
16	11	5	水	授業研④【教科】			
17		12	水	防災教育		部会①（起業体験部会）	藤田、各部会
18		19	水	授業研⑤【教科】			
19		26	水	F・氷川ブロック研に向けて			瀧本、学年部
		28	金	F・氷川ブロック人権教育授業研究会【学活/道徳】			全員
20	12	10	水	授業研⑥【教科】			
21		17	水	論文作成について		部会②（授業改善部会）	吉本、各部会
22	1	14	水	人権同和教育に関する研修	性教育の授業について	3学期の取組	瀧本、福山、吉本
23		21	水	情報教育に関する研修		部会②（授業改善部会）	長田、各部会
		23	金	竜北中学校研究発表会			全員
24		28	水	いきいき感謝祭へ向けて（取組掲示物）			各担当
25	2	10	火	授業研⑦【初任者研修】			橋本
		18	水	県学力学習状況調査分析		部会①（起業体験部会）	畠中、各部会
26		25	水	今年度の反省と来年度への志向		人権同和教育実践報告会（レポート研）	吉本、瀧本